

## ■2013 年度グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目一覧■

	科目名	対象
1 学期	「実践グローバルリーダーシップ」	学部・大学院
	「リーダーシップデザイン」	学部・大学院
	「ネゴシエーション基礎」	学部
	「ネゴシエーションⅠ」	大学院
2 学期	「アジアに おける事業戦略とリーダーシップ」	学部・大学院
	「リーダーシップを考える」	学部・大学院
	「ネゴシエーション」	学部
	「ネゴシエーションⅡ」	大学院

グローバルリーダーシップ・プログラム

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

## 時間割情報

授業コード	020278	開講区分	1学期	曜日時限	水 6
開講科目名	特別講義(実践グローバル・リーダーシップ)			教室	教室は時間割で確認
開講科目名 (英)	Special Lecture on Global Leadership				
単位数	2				
年次	3,4年				
担当教員	野村 美明、南部 靖之、多胡 圭一				

## 詳細情報

授業の目的/ Course Objective	<p>グローバル社会における社会問題・経済問題の解決のためには、グローバルに通用するリーダーシップを持つ人材の育成が不可欠です。また、グローバルな問題の解決には、パブリック、ビジネスといった枠を超えた様々なステークホルダーが協働して取り組んでいくことが求められています。</p> <p>この授業では、内外を問わず様々な分野でグローバルな視点を持ってリーダーシップを発揮されてきた方々を講師に招き、その哲学・経験に基づいて対話を重ねることによって、グローバルな問題解決のためのリーダーシップとは何かについて考察します。</p> <p>同時に、講師と参加者が協働して授業を進め有為な成果を導き出すプロセスをとることによって、実践的なリーダーシップの実験と学習の場を協創します。</p>
履修条件・受講条件/ Requirement / Prerequisite	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話型、実践型授業のため、受講者数が25名を超える場合には、受講理由書の内容により、受講者の多様性の確保を考慮しつつ、人数制限をすることがあります。</li> <li>・遅くとも4月10日(水)中に、受講理由をメールで提出すること。テーマ:この授業の履修により習得を期待すること。提出方法:A4用紙一枚以内(Word ポイント11)とし、ファイルのヘッダーに提出日 氏名 学番 メールアドレスを表記すること。メールは&lt;glp@osipp.osaka-u.ac.jp&gt;宛、必ず表題に「2013 実践グローバルリーダーシップ(受講者名)」と表記すること。</li> <li>・通常の授業よりも受講者による共同作業と予習・練習に時間が必要となるので、主体的に参加できる者に限る。</li> </ul>
講義内容/ Course Content	<p>講義 40分、質疑応答 40分を目途とします。80分すべてを使って、1つまたは2つ以上の課題を受講者と議論する形式を採用する場合があります。</p> <p>この講義では、ビジネスを中心に政府、国際機関、芸術文化など幅広い分野におけるトップ経験者を招き、各人の経験に基づくリーダーシップの在り方について対話形式で授業を行います。また、受講者が授業の運営を担い、ファシリテーターとして各講義における進行や議論のラップアップを行うだけでなく、淡路島における合宿や公開講義の運営を担うことにより、プロジェクト・マネジメントを経験します。対話型授業で学ぶだけでなく、プロジェクト・リーダーを経験す</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>ることにより、参加者のリーダーシップの向上を目指します。</p> <p>(講義計画)</p> <p>講義時間は原則として水曜の18:00~20:00とし、練習、実践、公開講義、集中講義(合宿)分の回数を含めて、全15回分以上の講義を行います。詳細な講義日程は、教務係掲示板、KOAN等に掲示します。</p> <p>・2013年5月24日(金)~25日(土) 合宿(淡路島)</p> <p>(外部講師)</p> <p>・ビジネス</p> <p>南部靖之(株式会社パソナグループ代表取締役 グループ代表)</p> <p>平澤創(株式会社フェイス代表取締役社長、日本コロムビア株式会社取締役会長)澤田秀雄(HISグループ代表)</p> <p>・社会問題</p> <p>黒川清(政策研究大学院大学フェロー・教授、国会原発事故調査委員会元委員長)</p> <p>・国際問題</p> <p>明石康(元国際連合事務次長)</p> <p>神余隆博(前駐ドイツ大使)</p> <p>・文化芸術(公開授業)</p> <p>桂文枝(落語家)</p> <p>講義の課題の1つとして、この講義の理想のシラバスを議論・作成する機会を設ける。</p> <p>※この科目はグローバルリーダーシップ・プログラムの1科目です。1学期に「リーダーシップデザイン」、「実践グローバルリーダーシップ」、「ネゴシエーション1」、2学期に「ネゴシエーション2」、「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」、「リーダーシップを考える」があります。</p> <p>◇グローバルリーダーシップ・プログラム◇</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a></p>
<b>教科書／ Textbooks</b>	随時提示(原則として講義の前に資料をメールで配布)
<b>参考文献／ Reference</b>	<p>『最強の「リーダーシップ理論」集中講義』小野善生著(日本実業出版社、2013年)</p> <p>『「超」入門 失敗の本質』鈴木博毅著(ダイヤモンド社、2012年)</p> <p>『なぜ、日本企業は「グローバル化」でつまづくのか』ドミニク・テュルパン、高津尚志著(日本経済出版社、2012年)</p>
<b>成績評価／Grading Policy</b>	<p>・受講理由書5%+平常点55%(ファシリテート能力+発言内容+相互評価)+学期末レポート40%</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法の詳細については、授業中に説明する。</li> <li>・無断欠席した者は評価の対象としない。無断で遅刻・早退した場合も同様とする。</li> </ul>
オフィスアワー／ Office Hour	
コメント／Other Remarks	授業目的に共感し、対話型授業と協働作業に積極的に参加する学生を望む。

## 担当教員

教員氏名	ふりがな	内線	e-mail
星野 俊也			
南部 靖之			
多胡 圭一			

## 時間割情報

授業コード	020286	開講区分	1学期	曜日時限	火 3
開講科目名	特別講義(リーダーシップデザイン)			教室	教室は時間割で確認
開講科目名 (英)	Special Lecture on Leadership Design				
単位数	2				
年次	3,4年				
担当教員	木川田 一榮				

## 詳細情報

<b>授業の目的/ Course Objective</b>	<p>リーダーシップは科学ではなく、むしろ「アート」であるといわれ始めています。また、リーダーシップは、日本語訳では「指導力」といわれるように、「力(パワー)」とも密接に関係した概念であると考えられます。アートとしてのリーダーシップについての社会科学的な分析は可能であり、アートでありパワーである限り、それらを高めていくこともまた可能です。</p> <p>本講義では、受講者のみなさんの将来に向けてのキャリア・デザインの一環として捉え、いかに自分自身のリーダーシップの「アート」を磨き、「指導力」を高めるかに重きをおきます。そうした観点から、今日の世界におけるリーダーシップの現状課題やあり方について観察・認識し、自らのリーダーシップ・スタイルをデザインする手法を身につけることをねらいとします。</p> <p>グローバル化やネットワーク化が進む今日、受講者のみなさんは、近い将来、国際的な市民社会で活躍されることが期待されています。産業分野のみならず、とりわけ政治外交・公共・研究分野での日本人のリーダーシップの強化が望まれています。学生である現時点から、さまざまな国際舞台で活躍する魅力あるリーダーシップとは、どのようなものであるのかの実態を知り、自らのリーダーシップ像を考えていくことは、自らのキャリアを具体的にデザインしていくうえで、有意義な経験となります。</p> <p>国際環境の中での日欧米の最先端の具体的事例を通じて、リーダーシップの実践事例を学ぶことにより、みなさんの将来のリーダーとしての人間的資質を磨き、基本的能力を身につけていくことをめざします。</p> <p>到達目標</p> <p>受講者のみなさんが、下記の具体的な能力を身につけることをねらいとしています。①各自のリーダーシップ・スタイルを視覚的にデザインすることができるようになる(Design Boardの完成)。②自己形成プログラムをデザインすることができるようになる(Self-discipline Programの完成と実践)。</p>
<b>履修条件・受講条</b>	<p>初回講義日(4/9)までに、次の三つについてのレポートをメールで事前提出することを受講条</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

件／Requirement / Prerequisite	件といたします。①自分の将来計画・目標 ②履歴職歴の情報を含む自己紹介 ③この授業に期待する内容。定員(20名)オーバーの場合、レポートによって選抜いたします。A4用紙一枚(字体10.5ポイントで約1,200字)にWORDで提出してください。タイトルは、「リーダーシップ・デザイン」とし、レポートの必要要件である氏名・学番・メールアドレス・提出日を記載してください。
講義内容／Course Content	<p>上記目的・目標達成のため、以下の三部構成でチーム編成によるワークショップ型講義を進めます。チームの仲間と共に考え学び合う高質な経験を通じて、「国際性」「教養」「デザイン力」を実践的に身につける授業といたします。</p> <p>1. 自己認識編:「世界と日本、そして市民としての私」をテーマに、取り巻く環境の課題認識と世界と自己との関係性の構築を考えます</p> <p>2. 自己形成編:「対話と協創」をテーマに、コラボレーション技法やファシリテーション技法を身につけながら、ソーシャル・ネットワーク形成の習得を考えます</p> <p>3. 自己発現編:「市民社会変革型リーダーの使命と役割」をテーマに、市民社会でのリーダーとしてのM.V.P.(Mission/Vision/Passion)の形成、および志(Aspiration)・信念(Belief)・コミットメント(Commitment)の形成と実践を考えます</p>
教科書／Textbooks	毎回、レジュメ、必要に応じて、プリント・資料を配布します。
参考文献／Reference	『リーダー・パワー』ジョセフ・S・ナイ、日本経済新聞出版社。2008年(原題”The Powers to Lead”, Joseph S. Nye Jr.)。『リーダーへの旅路』ビル・ジョージ+ピーター・シムズ、生産性出版、2007年(“True North”, Bill George with Peter Sims)。(原書の読書を推薦)
成績評価／Grading Policy	① 受講態度・参加度、②チーム貢献度(学友評価:Peer Review)、③習得度(自己評価と教員評価)④発表・レポートの品質などにより総合評価いたします。とくに、みなさんのチームワーク・協業(Collaboration)する力、自らデザインする力の習得レベルを重視し、ペーパー試験はいたしません。ただし、正当な理由なく無断欠席をした場合、一切の成績評価をいたしませんので、ご注意ください。
オフィスアワー／Office Hour	
コメント／Other Remarks	所属学部などを問わず、世界をより善い方向に導いていきたいと考え、そのために自らのリーダーシップ能力を高めたいという、自己形成の意欲のある受講生を歓迎します。みなさんには、国際教養としてのマナーを身につけていただくことを重視しますので、遅刻・居眠りは厳禁、欠席3回で、評価「欠席」といたしますので、ご注意ください。

## 担当教員

教員氏名	ふりがな	内線	e-mail
木川田 一榮	きかわだ かずえ		kikawada@cep.osaka-u.ac.jp

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

時間割情報	
授業コード	20624
曜日時限	集中
科目名	特別講義 (ネゴシエーション基礎)
科目名 (英)	
単位数	2
担当教員	大澤恒夫
時限について	1限 8:50~10:20 2限 10:30~12:00 3限 13:00~14:30 4限 14:40~16:10 5限 16:20~17:50 6限 18:00~19:30
詳細情報	
授業の目的	分野を問わず社会のリーダーとして仕事に取り組もうとする人々に求められるのは、「問題解決能力」である。問題解決を進めるために必要なことは、背景や意見を異にする人々と話し合いを遂行し、議論を噛み合わせ、対話を促進して、問題の構造的把握や関連する情報の収集・分析を踏まえ、適切な解決策を創造し、合意を形成することである。このような問題解決のための実践的な活動の核を成すのは、「交渉」、すなわちネゴシエーションである。この授業は、ネゴシエーションを通じた適切な問題解決に取り組むための基礎的な能力の育成を目的とする。幅広い人材が集い、多様な観点から授業に貢献されることを期待している。
履修条件・受講要件	<p>1. 受講希望者は、5月6日(月曜)【連休最終日】までに次のレポートを提出すること。</p> <p>(1) 自己紹介および受講の理由；及び</p> <p>(2) 自分の紛争体験又は交渉体験</p> <p>■紛争・交渉体験は、人に話して差し支えない範囲で具体的に記載すること。</p> <p>■(1) および(2)はそれぞれA4版用紙1枚以内(合計2枚以内)とし、上記(1)(2)を区別して記述すること。</p> <p>■以上をまとめてe-mailアドレス&lt;nomurakn@osipp.osaka-u.ac.jp&gt;に提出すること。</p> <p>■E-mailの件名は「ネゴシエーション受講要件(氏名・所属・学籍番号)」とすること。</p> <p>■レポートのヘッダー(右上)に次を記載すること。</p> <p>・提出日付・レポートのタイトル(受講要件)・所属・氏名及び学籍番号</p> <p>2. 特別の理由のない限り、講義に皆勤することが単位取得の要件となる。</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

講義内容	<p>交渉を遂行する力は、常に自分自身の日常の取り組みを振り返り、実践の中に埋め込まれた自分自身の活きた知恵（実践知）を磨くことによって、はじめて自分自身のなかに育まれる（日常の各自の細部にこそ、本当の力が宿っている）。</p> <p>この授業では、ごく一般的な交渉場面や受講者の日常の交渉体験、あるいは交渉プロフェッショナルの交渉の姿、ディベートを通じた議論のかみ合わせ、中立的第三者の関与による対話を通じた紛争解決（ミディエーション）など、様々な素材を使って受講者間のディスカッションを中心に検討をしたい。また、様々な実演、ロールプレイと振り返りを通じて、実践を支える知恵を見出し、磨く練習を行いたい。</p> <p>●集中講義</p> <p>この授業は集中授業であり、以下の日程（全5日、15限）で行う。</p> <p>【日時】8月17日（土）1限・2限・3限、18日（日）1限・2限・3限、24日（土）1限・2限・3限、25日（日）1限・2限・3限、31日（日）1限・2限・3限</p> <p>※1限9：30～11：00、2限11：10～12：40、3限14：00～15：30</p> <p>（通常の時間割と異なるので、留意されたい）</p> <p>【集合場所】 OSIPP棟2階 講義シアター</p> <p>【授業内容】</p> <p>■8月17日（土曜）1限・2限・3限（テーマ） オリエンテーション、交渉の経験に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉は実践</li> <li>・実践とはどのようなことか</li> <li>・専門家とは何か</li> <li>・仕事とはどのようなことか</li> <li>・受講者の交渉経験に学ぶ</li> </ul> <p>※受講者は各自の交渉等の経験を3分でプレゼンできるように準備すること（各人の工夫を歓迎する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－プレゼンテーション</li> <li>－ディスカッション＋ファシリテーション</li> <li>－振り返り（エッセイ作成）</li> </ul> <p>■8月18日（日曜）1限・2限・3限（テーマ） 交渉者の生きざまと交渉論に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－DVD視聴－ある交渉プロフェッショナルの生きざま（メモを取りながら）</li> <li>－交渉論を学ぶ</li> <li>－ディスカッション＋ファシリテーション</li> <li>－振り返り（エッセイ作成）</li> </ul> <p>■8月24日（土曜）1限・2限・3限（テーマ） 聴くことの意義を問う、相談を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－聴くことの意義を問う</li> </ul>
------	---

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>           -DVD 視聴と分析ディスカッション+ファシリテーション            -ロールプレイ、実演と振り返り+ファシリテーション            -レクチャー            -振り返り (エッセイ作成)         </p> <p> <b>■8月25日 (日曜) 1限・2限・3限 (テーマ) デイバートを実践する、ミディエイションを学ぶ</b> </p> <p>           -デイバート実践 (交渉コンペティション 2007年問題の一部を使用。問題文はあらかじめ配布するので、各自、よく読み込んで参加すること)         </p> <p>           -振り返りディスカッション+ファシリテーション         </p> <p>           -ミディエイションをめぐるレクチャー            -実演と振り返り (+ファシリテーション)            -振り返り (エッセイ作成)         </p> <p> <b>■8月31日 (土曜) 1限・2限・3限 (テーマ) ミディエイションを実践する</b> </p> <p>           -ミディエイション・ロールプレイ~3つのケース            -映像視聴と振り返りディスカッション            -振り返り (エッセイ作成)         </p> <p>           ※講義の課題の1つとして、この講義の理想のシラバスを議論・作成する機会を設ける。         </p>
教科書	
参考文献	<p> <b>■野村美明・太田勝造編著『交渉ケースブック』(商事法務 2005年)、なお大学対抗交渉コンペティションH. P. <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html</a>、も参照。</b> </p> <p> <b>■フィッシャーほか(金山宣夫、浅井和子訳)『新版ハーバード流交渉術』(三笠書房・知的生き方文庫)、フィッシャーほか(印南一路訳)『新ハーバード流交渉術—論理と感情をどう生かすか』</b> </p> <p> <b>■マルホトラ=ベイザーマン(森下哲朗監訳)『交渉の達人』(日本経済新聞社 2010年)</b> </p> <p> <b>■レビン小林久子『調停者ハンドブック』(信山社 1998年)</b> </p> <p> <b>■大澤恒夫『法的対話論—法と対話の専門家をめざして』(信山社 2004年)、大澤恒夫『対話が創る弁護士活動—交渉・ADR・司法アクセス・法教育』(信山社 2011年)</b> </p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講にあたっての積極性（出席回数を含む）</li> <li>2. 授業中の発言内容、パフォーマンス</li> <li>3. 受講要件の課題エッセイ、毎回の小エッセイの内容、質</li> <li>4. その他授業への貢献度を総合的に考慮して評価する。</li> </ol>
コメント	<p>※この科目はグローバルリーダーシップ・プログラムの1科目です。1学期に「リーダーシップデザイン」、「実践グローバルリーダーシップ」、「ネゴシエーション基礎」、2学期に「ネゴシエーション」、「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」、「リーダーシップを考える」があります。</p> <p>グローバルリーダーシップ・プログラム</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a></p>
担当教員情報	
氏名	大澤恒夫
所属・職名・講座名	弁護士
e-mail	nomurakn@osipp.osaka-u.ac.jp（公開の可否：可）

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

## 時間割情報

授業コード	310983(知のジム ナスティックス科 目)	開講区分	1学期	曜日時限	他
開講科目名	プロジェクト演習(ネゴシエーションI)M				
開講科目名 (英)	Project Study:Negotiation I				
単位数	2				

## 基本情報

履修対象	1又は2年
開講時期	第1学期

## 詳細情報

授業の目的	<p>分野を問わず社会のリーダーとして仕事に取り組もうとする人々に求められるのは、「問題解決能力」である。問題解決を進めるために必要なことは、背景や意見を異にする人々と話し合いを遂行し、議論を噛み合わせ、対話を促進して、問題の構造的把握や関連する情報の収集・分析を踏まえ、適切な解決策を創造し、合意を形成することである。このような問題解決のための実践的な活動の核を成すのは、「交渉」、すなわちネゴシエーションである。この授業は、ネゴシエーションを通じた適切な問題解決に取り組むための基礎的な能力の育成を目的とする。幅広い人材が集い、多様な観点から授業に貢献されることを期待している。</p>
履修条件・受講条件	<p>1. 受講希望者は、5月6日(月曜)【連休最終日】までに次のレポートを提出すること。</p> <p>(1) 自己紹介および受講の理由;及び</p> <p>(2) 自分の紛争体験又は交渉体験</p> <p>■紛争・交渉体験は、人に話して差し支えない範囲で具体的に記載すること。</p> <p>■(1)および(2)はそれぞれA4版用紙1枚以内(合計2枚以内)とし、上記(1)(2)を区別して記述すること。</p> <p>■以上をまとめて e-mail アドレス&lt;nomurakn@osipp.osaka-u.ac.jp&gt;に提出すること。</p> <p>■E-mail の件名は「ネゴシエーション受講要件(氏名・所属・学籍番号)」とすること。</p> <p>■レポートのヘッダー(右上)に次を記載すること。</p> <p>・提出日付・レポートのタイトル(受講要件)・所属・氏名及び学籍番号</p> <p>2. 特別の理由のない限り、講義に皆勤することが単位取得の要件となる。</p>
講義内容	<p>交渉を遂行する力は、常に自分自身の日常の取り組みを振り返り、実践の中に埋め込まれた自分自身の活かした知恵(実践知)を磨くことによって、はじめて自分自身のなかに育まれる(日常の各自の細部にこそ、本当の力が宿っている)。</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

この授業では、ごく一般的な交渉場面や受講者の日常の交渉体験、あるいは交渉プロフェッショナルの交渉の姿、ディベートを通じた議論のかみ合わせ、中立的第三者の関与による対話を通じた紛争解決(ミディエーション)など、様々な素材を使って受講者間のディスカッションを中心に検討をしたい。また、様々な実演、ロールプレイと振り返りを通じて、実践を支える知恵を見出し、磨く練習を行いたい。

## ●集中講義

この授業は集中授業であり、以下の日程(全5日、15限)で行う。

【日時】8月17日(土)1限・2限・3限、18(日)1限・2限・3限、24日(土)1限・2限・3限、25日(日)1限・2限・3限、31日(日)1限・2限・3限

※1限9:30~11:00、2限11:10~12:40、3限14:00~15:30

(通常の時間割と異なるので、留意されたい)

【集合場所】OSIPP棟2階 講義シアター

## 【授業内容】

■8月17日(土曜)1限・2限・3限 (テーマ) オリエンテーション、交渉の経験に学ぶ  
 ・交渉は実践・実践とはどのようなことか・専門家とは何か・仕事とはどのようなことか・受講者の交渉経験に学ぶ

※受講者は各自の交渉等の経験を3分でプレゼンできるように準備すること

(各人の工夫を歓迎する)

- プレゼンテーション
- ディスカッション+ファシリテーション
- 振り返り(エッセイ作成)

■8月18日(日曜)1限・2限・3限 (テーマ) 交渉者の生きざまと交渉論に学ぶ

- DVD視聴—ある交渉プロフェッショナルの生きざま(メモを取りながら)
- 交渉論を学ぶ
- ディスカッション+ファシリテーション
- 振り返り(エッセイ作成)

■8月24日(土曜)1限・2限・3限 (テーマ) 聴くことの意義を問う、相談を学ぶ

- 聴くことの意義を問う
- DVD 視聴と分析ディスカッション+ファシリテーション
- ロールプレイ、実演と振り返り+ファシリテーション
- レクチャー
- 振り返り(エッセイ作成)

■8月25日(日曜)1限・2限・3限 (テーマ) ディベートを実践する、ミディエーションを学ぶ

- ディベート実践(交渉コンペティション 2007年問題の一部を使用。問題文はあらかじめ配布するので、各自、よく読み込んで参加すること)
- 振り返りディスカッション+ファシリテーション

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>—ミディエーションをめぐるレクチャー</p> <p>—実演と振り返り(+ファシリテーション)</p> <p>—振り返り(エッセイ作成)</p> <p>■8月31日(土曜)1限・2限・3限(テーマ) ミディエーションを実践する</p> <p>—ミディエーション・ロールプレイ~3つのケース</p> <p>—映像視聴と振り返りディスカッション</p> <p>—振り返り(エッセイ作成)</p> <p>※講義の課題の1つとして、この講義の理想のシラバスを議論・作成する機会を設ける。</p>
<b>教科書</b>	
<b>参考文献</b>	<p>■野村美明・太田勝造編著『交渉ケースブック』(商事法務 2005年)、なお大学対抗交渉コンペティションH. P. <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html</a>、も参照。</p> <p>■フィッシャーほか(金山宣夫、浅井和子訳)『新版ハーバード流交渉術』(三笠書房・知的生き方文庫)、フィッシャーほか(印南一路訳)『新ハーバード流交渉術—論理と感情をどう生かすか』</p> <p>■マルホトラ=ベイザーマン(森下哲朗監訳)『交渉の達人』(日本経済新聞社 2010年)</p> <p>■レビン小林久子『調停者ハンドブック』(信山社 1998年)</p> <p>■大澤恒夫『法的対話論—法と対話の専門家をめざして』(信山社 2004年)、大澤恒夫『対話が創る弁護士活動—交渉・ADR・司法アクセス・法教育』(信山社 2011年)</p>
<b>成績評価</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講にあたっての積極性(出席回数を含む)</li> <li>2. 授業中の発言内容、パフォーマンス</li> <li>3. 受講要件の課題エッセイ、毎回の小エッセイの内容、質</li> <li>4. その他授業への貢献度を総合的に考慮して評価する。</li> </ol>
<b>コメント</b>	<p>※この科目はグローバルリーダーシップ・プログラムの1科目です。1学期に「リーダーシップデザイン」、「実践グローバルリーダーシップ」、「ネゴシエーションⅠ」、2学期に「ネゴシエーションⅡ」、「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」、「リーダーシップを考える」があります。</p> <p>グローバルリーダーシップ・プログラム</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a></p>

## 授業担当教員

教員氏名	居室	内線	e-mail
大澤恒夫 客員教授(弁護士)			

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

## 時間割情報

授業コード	020289	開講区分	2学期	曜日時限	木 4
開講科目名	特別講義(アジアにおける事業戦略とリーダーシップ)			教室	教室は時間割で確認
開講科目名 (英)	Special Lecture(Leadership and Business Strategy in Asia)				
単位数	2				
年次	3,4年				
担当教員	三成 賢次、高橋 慶吉				

## 詳細情報

授業の目的	この授業は通常の講義とは異なります。阪大OBらの協力により、企業のトップをゲストに招き、未曾有の経済危機の中でも相互依存を強めるアジアのなかで、企業としての事業戦略はどうあるべきか、グローバルな企業活動のための社会的責任(CSR)とリーダーシップをいかに果たしていくかを語りかけてもらいます。一方的な講義ではなく質疑を通じた双方向的な対話を通じて、リーダーとしてのあり方、振る舞い方などを「本物から学ぶ」ことが目的です。
履修条件・受講条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の効果を高めるために、下記の内容を含む厳格な受講ルールを設けます。これに同意することが受講の条件である。</li> <li>2. 全講義の7割以上出席すること。理由のいかんを問わない。</li> <li>3. 時間厳守、通知連絡、受講態度、言葉遣いなど社会人としてのビジネスマナーを守ること。授業開始後は教室には入れない。理由のいかんを問わない。</li> <li>4. KOAN および物理的掲示を見ていないことにより授業の履修ができなくなった場合は、すべて本人の自己責任とする。理由のいかんを問わない。</li> </ol>
講義内容	<p>学生が企業および教員と協力しながら授業を創ります。たとえば、ゲスト紹介、ゲストへの謝辞、ファシリテーター、マイク回し、写真撮影や機材の操作はすべて学生が担当します。</p> <p>講義はゲストスピーカーのプレゼンテーション40分、質疑応答40分が原則です。ゲストによっては、1つまたは2つ以上の課題を出して議論する方法も取り入れたいと思います。</p> <p>受講者による毎回の講義のフィードバックや「理想的なシラバス」の提案が可能となるようなよい方法を、受講者と共に考えたいと思います。講義の課題の1つとして、この講義の理想のシラバスを議論・作成する機会を設けます。</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>※この授業は高度副プログラム(グローバルリーダーシップ・プログラム)の1科目です。</p> <p>関連科目として、1学期に「実践グローバルリーダーシップ」、「リーダーシップデザイン」、「ネゴシエーション基礎」、2学期に「ネゴシエーション」、「リーダーシップを考える」があります。</p> <p>グローバルリーダーシップ・プログラム</p> <p>URL : <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a></p> <p>※聴講は事前申込にて受付けます。(教室の収容人数により、人数制限をさせていただきます。)</p> <p>申込先 : <a href="mailto:glp@osipp.osaka-u.ac.jp">glp@osipp.osaka-u.ac.jp</a></p> <p>ゲストスピーカーに関しましては決定次第 KOAN 及び HP に掲載いたします。</p>
<b>教科書</b>	授業中に指示します。
<b>参考文献</b>	授業中に指示する。
<b>成績評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終授業におけるプレゼンテーションおよび学年末のレポート(A4版2枚程度)80%および授業中の質疑応答や授業への貢献度20%の割合で評価する。</li> <li>・出席が全講義(意見交換会を含む)の7割に満たない者は、理由のいかんを問わず評価の対象としない。</li> <li>・3割の猶与を設けているので、遅刻および欠席については不可抗力や就職活動や他の授業の履修を含むいかなる理由も認めない。</li> </ul>
<b>オフィスアワー</b>	事前連絡でいつでも歓迎
<b>コメント</b>	企業リーダーから直に話を聞き質問をしたい人、リーダーの倫理や企業の社会貢献(CSR)に関心のある人、将来 国際的なビジネスや法曹界で活躍したい人にすすめます。

## 授業担当教員

教員氏名	ふりがな	内線	e-mail
データがありません			

## 時間割情報

授業コード	020277	開講区分	2学期	曜日時限	水 6
開講科目名	特別講義(リーダーシップを考える)			教室	教室は時間割で確認
開講科目名 (英)	Special Lecture on Leadership				
単位数	2				
年次	3,4 年				
担当教員	野村 美明				

## 詳細情報

授業の目的/ Course Objective	リーダーシップは首相や社長などの地位から生じるものではありません。リーダーシップの基本は、市民の1人1人が社会的問題を、責任を持って解決しようとする行動にあります。この講義は、学生と教員が社会と協働して、他の授業や公開講義を活性化し運営する活動の中で、リーダーシップを具体的に学びます。
履修条件・受講条件/ Requirement / Prerequisite	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が主体的に意思を持って動けるか</li> <li>・人に動いてもらえるような伝え方や動き方が出来るか</li> <li>・チームや会議の中で話し合っ合意形成ができるか。</li> </ul>
講義内容/ Course Content	<p>リーダーシップの目的は、困難な問題を解決するために人びとに価値観や行動の変化(学習)を促すことです。この講義での、普通は教員が独占している“教育”を、学生がよくする(困難な問題を解決する!)という活動自体が、リーダーシップのレッスンになるのです。</p> <p>ひとつのレッスンとして、阪大の卒業生を中心とする企業のトップをゲストに迎える「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」(2学期木曜日4限)の講義で大学院生のコーチを受けながら、みなさん方がリーダーとなってゲストとの打ち合わせや授業の運営・改善を行います。</p> <p>この講義も学生が中心です。学生支援ステーションの太刀掛俊之准教授や、交渉学の野村美明(国際公共)やゲストによる講義・コーチングもあります。さらなる練習の場として、連携企業と一緒に企画を立案することもできます。他の授業の運営とこの授業におけるディスカッションや振り返りや企画立案を通じて、リーダーシップの重要要素である話し方やコミュニケーション力を養成することができます。</p> <p>講義の課題の1つとして、この講義の理想のシラバスを議論・作成する機会を設けます。</p> <p>※この科目はグローバルリーダーシップ・プログラムの1科目です。 上にあげた以外の関連科目として、1学期に「リーダーシップデザイン」、「ネゴシエーション基礎」、2学期に「ネゴシエーション」があります。</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	(グローバルリーダーシップ・プログラム <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a> )
教科書/ Textbooks	<p>実践だけではよいリーダーシップは身に付きません。つぎの教科書のガイドラインを自分の実践と照らし合わせて反省しながら授業に取り組んでください。</p> <p>平田オリザ・蓮行『コミュニケーション力を引き出す』PHP 研究所 (2009/8/18)</p> <p>マーティ・リンスキー,ロナルド・A・ハイフェッツ/竹中平蔵訳『最前線のリーダーシップ』(ファーストプレス 2007年)</p> <p>; Ronald A. Heifetz "Leadership on the Line" (Harvard Business School Press, 2002)</p> <p>以上が入手できない場合には、国際公共政策棟5階の研究支援室に貸出用コピーを備え置くので、各自コピーすること。</p>
参考文献/ Reference	<p>以下の他は、講義中に指示します。</p> <p>シャロン・ダロツ・パークス/中瀬英樹訳『リーダーシップは教えられる』(ランダムハウス講談社2007年); Sharon Daloz Parks, Leadership Can Be Taught (Harvard Business School Press, 2005).</p>
成績評価/Grading Policy	<p>授業への熱意(予習および遅刻欠席)(30%)、授業中の質疑応答、貢献度と練習のパフォーマンス(40%)および授業の課題および最終レポート(30%)の合計による。</p> <p>ただし、正当な理由なく欠席をした場合には、一切の成績評価をしない。</p>
オフィスアワー/ Office Hour	
コメント/Other Remarks	<p>自ら主体的に動く意思を持って受講してください。リーダーシップは与えられるものではなく、獲得するものである。</p>

## 担当教員

教員氏名	ふりがな	内線	e-mail
データがありません			

## 時間割情報

授業コード	026202	開講区分	2学期	曜日時限	火 6
開講科目名	ネゴシエーション			教室	教室は時間割で確認
開講科目名 (英)	Negotiation				
単位数	2				
年次	3,4年				
担当教員	野村 美明				

## 詳細情報

授業の目的/ Course Objective	<p>他の国家あるいは他人との関係をつくり、そこから生じる紛争を処理するのは、人と人の交渉すなわちネゴシエーションである。この演習は、プロフェッショナルとしての高い交渉能力を身につけることを目的とする。</p> <p>最終的には、交渉技術についてのみならず、ビジネスパーソンとしてふさわしいビジネスマナー、グループワークを円滑に行うのに必要な能力(チームワーク、リーダーシップなど)もあわせて身につくよう、研鑽を積んで欲しい。</p>
履修条件・受講条件/ Requirement / Prerequisite	<p>1.夏休み期間中に事前オリエンテーションを実施するので参加すること。日程は、4月までに教務掲示板、KOAN等で告知する。</p> <p>2.初回講義は時間延長の可能性があるので、講義後(6限以降)の予定を空けておくこと</p> <p>3.授業にも授業の準備(少なくとも通常の講義の2倍以上の時間と体力を要すると推定される)にも継続的・精力的に参加できる者に限る。</p>
講義内容/ Course Content	<p>実務家や他大学教員と協力して作成した模擬事例を使って実際に交渉や仲裁を行ない、その過程を反省・議論することによって、自己客観化と技術の内 在化 をはかる。</p> <p>具体的には、12月に上智大学で行われる交渉コンペティションへ(以下「INC」)の準備・参加を通して、交渉力・仲裁力を養う。交渉コンペでは、仮想のビジネス問題(INC問題を使い、各大学の代表チームが対戦する。大阪大学では例年5人1班(日本語・英語)で3班が出場するが、選手希望者が多い場合、選手選考を行う。選手以外のメンバーは、サポートメンバーとして選手のサポートをし、全員でよりよい交渉者・仲裁者となることを目指す。</p> <p>講義の課題の1つとして、この講義の理想のシラバスを議論・作成する機会を設ける。</p> <p>-----</p>

## 2013 年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>◆講義計画</p> <p>第0回 事前オリエンテーション (夏休み中に開催予定 日程は4月までにKOAN,教務掲示板等で告知する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要説明 INC のDVD 視聴</li> <li>・OB/OG からの説明</li> <li>・選手選考用問題(ディベートおよび交渉)配布。</li> </ul> <p>※採点基準は、INC 第11回大会の「審査について」を準用する。  <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/files/evaluationsystem_j.pdf">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/files/evaluationsystem_j.pdf</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手選考に関する質問、ディスカッション</li> <li>・2ヶ月間の詳細なスケジュールリングについて、受講者から具体的な提案をすること。</li> </ul> <p>第1回～第2回[10月1日予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手・バックアップ選考</li> <li>・選考結果と理由の公表</li> <li>・チーム分け</li> <li>・2ヶ月間スケジュールの確定</li> </ul> <p>第3回から11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生主体での準備。本講義時間帯(毎週火曜日6限)は、講義室を学生に開放する。</li> </ul> <p>※バックアップメンバーは必ずこの期間に教員・卒業生等を審査員としてINC問題で模擬交渉および模擬仲裁を最低各2回行い、評価を受けること。</p> <p>第12回～14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉コンペティション(於上智大学四谷キャンパス)に参加</li> </ul> <p>※学生は仲裁および交渉の様様を録画して、あとで教員や希望者が視聴できるようにすること。</p> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉コンペティション反省会</li> <li>・選手・バックアップメンバーによる振り返り</li> <li>・教員による全体講評</li> </ul>
<p>教科書/ Textbooks</p>	<p>1. 太田勝造・野村美明編『交渉ケースブック』(商事法務、2005年)</p> <p>2. 交渉コンペの問題</p> <p>従来の問題は以下参照。 (例: 第11回問題) <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/mondai.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/mondai.html</a></p>
<p>参考文献/</p>	<p>フィッシャー &amp; ユーリー著、金山宣夫・浅井和子訳『新版ハーバード流交渉術』(知的生き方文</p>

## 2013 年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

<b>Reference</b>	<p>庫、三笠書房)</p> <p>レビン小林久子『調停者ハンドブック』(信山社、1998 年)</p> <p>大澤恒夫著『法的対話論』(信山社)</p> <p>マルホトラ・ベイザーマン著、森下哲朗監訳『交渉の達人』(日本経済新聞出版社、2010)</p>
<b>成績評価／ Grading Policy</b>	<p>模擬交渉・模擬仲裁練習の評価、東京の INC 大会における実技試験、その後の反省会(以上 40%) および最終レポート(60%) の評価による。</p> <p>第 1 回講義で評価基準を説明する。</p>
<b>オフィスアワー／ Office Hour</b>	
<b>コメント／Other Remarks</b>	<p>交渉コンペティションについての情報はこちらで参照してください。</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html</a></p> <p>※この科目はグローバルリーダーシップ・プログラムの 1 科目です。1 学期に「リーダーシップデザイン」、「実践グローバルリーダーシップ」、「ネゴシエーション基礎」、2 学期に「ネゴシエーション」、「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」があります。</p> <p>グローバルリーダーシップ・プログラム</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a></p>

## 担当教員

教員氏名	ふりがな	内線	e-mail
野村美明		5625	<a href="mailto:nomura@osipp.osaka-u.ac.jp">nomura@osipp.osaka-u.ac.jp</a> / <a href="mailto:nomurakn@osipp.osaka-u.ac.jp">nomurakn@osipp.osaka-u.ac.jp</a>
ヴァージル・ホーキンス			

## 2013 年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

## 時間割情報

授業コード	310984(知のジム ナスティックス科 目)	開講区分	2学期	曜日時限	火 6
開講科目名	プロジェクト演習(ネゴシエーション II)M				
開講科目名 (英)	Project Study:Negotiation II				
単位数	2				

## 基本情報

履修対象	博士前期課程
開講時期	第2学期
曜日	火曜日 6 限及び 12 月初旬の金曜日から日曜日(4 月以降公表)

## 詳細情報

授業の目的 / Course Objective	<p>他の国家あるいは他人との関係をつ結び、そこから生じる紛争を処理するのは、人と人の交渉すなわちネゴシエーションである。この演習は、プロフェッショナルとしての高い交渉能力を身につけることを目的とする。</p> <p>最終的には、交渉技術についてのみならず、ビジネスパーソンとしてふさわしいビジネスマナー、グループワークを円滑に行うのに必要な能力(チームワーク、リーダーシップなど)もあわせて身につくよう、研鑽を積んで欲しい。</p>
履修条件・ 受講条件/ Requirement / Prerequisite	<p>1.夏休み期間中に事前オリエンテーションを実施するので参加すること。日程は、4 月までに教務掲示板、KOAN 等で告知する。</p> <p>2.初回講義は時間延長の可能性があるので、講義後(6限以降)の予定を空けておくこと</p> <p>3.授業にも授業の準備(少なくとも通常の講義の 2 倍以上の時間と体力を要すると推定される)にも継続的・精力的に参加できる者に限る。</p>
講義内容/ Course Content	<p>実務家や他大学教員と協力して作成した模擬事例を使って実際に交渉や仲裁を行ない、その過程を反省・議論することによって、自己客観化と技術の内 在化 をはかる。</p> <p>具体的には、12 月に上智大学で行われる交渉コンペティションへ(以下「INC」)の準備・参加を通して、交渉力・仲裁力を養う。交渉コンペ では、仮想のビジネス問題(INC 問題を使い、各大学の代表チームが対戦する。大阪大学では例年 5 人 1 班(日本語・英語)で 3 班が出場するが、選手希望者が多い場合、選手選考を行う。選手以外のメンバーは、サポートメンバーとして選手のサポートをし、全員でよ</p>

## 2013 年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>りよい交渉者・仲裁者となることを目指す。</p> <p>-----</p> <p>◆講義計画</p> <p>第0回 事前オリエンテーション (夏休み中に開催予定 日程は KOAN,教務掲示板等で4月までにお知らせ予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要説明 INC の DVD 視聴</li> <li>・OB/OG からの説明</li> <li>・選手選考用問題(ディベートおよび交渉)配布。</li> </ul> <p>※採点基準は、INC 第11回大会の「審査について」を準用する。 <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/files/evaluationsystem_j.pdf">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/files/evaluationsystem_j.pdf</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手選考に関する質問、ディスカッション</li> <li>・2ヶ月間の詳細なスケジュールリングについて、受講者から具体的な提案をすること。</li> </ul> <p>第1回～第2回[10月1日予定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手・バックアップ選考</li> <li>・選考結果と理由の公表</li> <li>・チーム分け</li> <li>・2ヶ月間スケジュールの確定</li> </ul> <p>第3回から11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生主体での準備。本講義時間帯(毎週火曜日6限)は、講義室を学生に開放する。</li> </ul> <p>※バックアップメンバーは必ずこの期間に教員・卒業生等を審査員として INC 問題で</p> <p>模擬交渉および模擬仲裁を最低各2回行い、評価を受けること。</p> <p>第12回～14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉コンペティション(於上智大学四谷キャンパス)に参加</li> </ul> <p>※学生は仲裁および交渉の様子を録画して、あとで教員や希望者が視聴できるようにすること。</p> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交渉コンペティション反省会</li> <li>・選手・バックアップメンバーによる振り返り</li> <li>・教員による全体講評</li> </ul>
<p>教科書/ Textbooks</p>	<p>1. 太田勝造・野村美明編『交渉ケースブック』(商事法務、2005年)</p> <p>2. 交渉コンペの問題</p>

## 2013年度 グローバルリーダーシップ・プログラム開講科目

	<p>従来の問題は以下参照。</p> <p>(例: 第11回問題) <a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/mondai.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/comp11th/mondai.html</a></p>
<b>参考文献／</b> <b>Reference</b>	<p>フィッシャー&amp;ユーリー著、金山宣夫・浅井和子訳『新版ハーバード流交渉術』(知的生き方文庫、三笠書房)</p> <p>レビン小林久子『調停者ハンドブック』(信山社、1998年)</p> <p>大澤恒夫著『法的対話論』(信山社)</p> <p>マルホトラ・ベイザーマン著、森下哲朗監訳『交渉の達人』(日本経済新聞出版社、2010)</p>
<b>成績評価／</b> <b>Grading</b> <b>Policy</b>	<p>第1回講義で評価基準を説明する。</p> <p>なお、最終試験は12月に東京で開催予定の大学対抗交渉コンペティションにおける実技試験および反省会、最終レポートにおける自己分析による。</p>
<b>コメント／</b> <b>Other</b> <b>Remarks</b>	<p>交渉コンペティションについての情報はこちらで参照してください。</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html</a></p> <p>※この科目はグローバルリーダーシップ・プログラムの1科目です。1学期に「リーダーシップデザイン」、「実践グローバルリーダーシップ」、「ネゴシエーション基礎」、2学期に「ネゴシエーション」、「アジアにおける事業戦略とリーダーシップ」があります。</p> <p>グローバルリーダーシップ・プログラム</p> <p><a href="http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html">http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html</a></p>